

日本におけるインテリアに関する資格の取得要件と 試験内容についての一考察

茂 木 弥生子*

Content of Examinations and Conditions for Acquiring Professional Qualifications in Interior Design in Japan

Yayoiko MOTEGI*

Abstract

The need for housing in Japan has been steadily increasing, so improving the value and quality of housing through renovation is an urgent task. The interior of a home is one of the most important elements. As Japanese people's lifestyles have become increasingly diversified, interest in housing and interior design has also risen. Experts in the housing industry must therefore respond to the evolving requests of consumers. This paper describes the content of examinations and the conditions for acquiring professional qualifications in interior design in Japan. A total of 28 professional qualifications related to interior design in Japan were examined. Although a wide range of qualifications were identified, they all shared a similar requirement level regarding professional ability. No qualifications related to interior design were found to be monopolistic, so their positioning remains vague. Therefore, professional qualifications in interior design need to be reorganized to more clearly specify the role of experts for consumers.

1. はじめに

日本の住宅ストックは年々増加しており、2013年の総務省による「住宅・土地統計調査」では総住宅数が6063万戸となっている。それに対して、同年の総世帯数は5245万世帯であり、住宅ストックが世帯数を大幅に上回っている。住宅ストックをどのように活用していくかは空き家の有効活用も含め、大きな課題である。そのひとつの手段として、リフォームやリノベーション等の再生手法により住宅ストックの性能や価値を向上させて活用していくことは急務で

ある。リフォームやリノベーション等の再生手法に取り組むうえで、設備や内装等を含めたインテリアは重要な要素となる。

また、人々の価値観やライフスタイルの多様化が進み、住宅やインテリアに対する関心も高まっている。多様化するニーズに応えるためには、これまで以上に専門家の活躍が必要不可欠であるが、それに答えることができる専門家は誰なのか、生活者にとって分かりにくい。住宅やインテリアに関する専門家とはどのような資格を保持している人なのか、どのようなケース

*人文学部 住空間デザイン学科

にどのような専門家に相談すべきなのか、生活者にとって理解しやすい情報が必要である。

そこで、既報 1¹⁾ において、日本におけるインテリア関連の団体に着目してインテリア業界の変遷についての調査をおこない、21世紀に入り団体や専門資格が複雑化しており、生活者にとって混乱を招きやすい状況が生じていることを明らかにした。続いて既報 2²⁾ では、インテリアに関する専門資格に着目してその変遷や種類についての調査をおこない、各資格の特徴を整理することにより、類似した資格が多く存在していることを明らかにした。そこで、本報告では、インテリアに関する専門資格の取得要件や試験内容に着目して調査をおこない、資格の整理・分析を試みる。

2. 調査方法

(1) 調査対象の選定

インテリアに関する資格のうち、設計やデザイン、接客、販売等に携わる資格を、可能な限り幅広く書籍やインターネット検索などにより収集し、既報 2²⁾ の調査対象に新たに2種類の資格を加え、28種類の資格を選定した。各資格制度を創設年順にまとめたものを表1に示す。なお、インテリアの建材や施工等の専門的な技術等の認定・資格もあるが、それらは今回の調査対象から除外した。

(2) 調査内容

選定した28種類の資格について、2016年3月から10月にかけて各実施団体のホームページからの情報収集、および実施団体への問合せを行い、資格の概要や設立経緯、受験・登録要件、試験内容、有資格者数等についての調査を行った。

その中から、本報告では受験・登録更新要件や試験内容を中心に内容を整理し、インテリア

に関する資格の職能についての分析を行った。

3. インテリア全般に関する資格

調査対象とした28種類の資格のうち、インテリア全般に関する資格7種類について考察する。資格の概要について表2にまとめた。

(1) 受験要件

インテリア全般に関する資格の受験要件を見ると(表3)、いずれの資格も初期段階の受験要件のハードルは低く設定されており、誰でも受験できる、もしくは年齢制限(18歳以上又は20歳以上)のみで受験資格が得られる。そのため、いずれの資格も学歴や実務経験がなくても挑戦できる。しかし、上位資格を目指す際には学歴や実務経験が問われることも多く、資格に対する門戸を開きつつ、等級を設けること等により専門性を高めている。また、「インテリアプランナー」は誰でも受験できるが、試験合格後に「インテリアプランナー」として登録するためには学歴・資格・実務のいずれかが求められている。但し、2016年度から学科試験合格者に「アソシエイト・インテリアプランナー」の称号が付与されることになったので、登録資格を得られるまでの期間も称号を得られるようになった。

(2) 試験内容

各資格の試験内容を表4にまとめた。「インテリア設計士」と「インテリアプランナー」は、インテリアの企画・設計から工事監理まで携わることができる知識と技術を持つ人材を認定する資格である。住宅をはじめ商業施設や公共建築物等、幅広い建物を対象としているため、学科試験の内容には建築要素の知識が多く含まれており、実技試験ではインテリアの計画・設計を行うので「建築士」の試験内容に近い。

表1 インテリアに関する資格制度一覧

No	資格	創設年	実施団体	ホームページ
1	建築士 一級建築士 二級建築士 木造建築士	1951 1984	公益財団法人 建築技術教育普及センター	http://www.jaeic.or.jp/k-seidozenpan.htm#1
2	インテリア設計士 1級インテリア設計士 2級インテリア設計士	1958	一般社団法人 日本インテリア設計士協会	http://www.jp-interior.or.jp/examination.html
3	商業施設士 商業施設士 商業施設士補	1974 2000	公益社団法人 商業施設技術者・団体連合会	http://www.jtocs.or.jp/
4	照明コンサルタント 照明士 照明コンサルタント	1985 1980	一般社団法人 照明学会	https://www.ieij.or.jp/educate/
5	インテリアコーディネーター	1983	公益社団法人 インテリア産業協会	https://www.interior.or.jp/examination/ic_intro/
6	インテリアデコレーター(ID=内装士)	1983	日本室内装飾事業協同組合連合会(日装連)	http://www.nissouren.jp/work/examination/index.html
7	DIYアドバイザー	1983	一般社団法人 日本ドゥ・イット・ユアセルフ協会	http://www.diy.or.jp/diy-ad/diy-test/test-guide.html
8	増改築相談員	1985	公益財団法人 住宅リフォーム・紛争処理支援センター	https://www.chord.or.jp/course/zokaichiku_01.html
9	インテリアプランナー	1987	公益財団法人 建築技術教育普及センター	http://www.jaeic.or.jp/shiken/ip/index.html
10	キッチンスペシャリスト	1988	公益社団法人 インテリア産業協会	https://www.interior.or.jp/examination/ks_intro/
11	色彩検定 1級 2級 3級	1990	公益社団法人 色彩検定協会	http://www.aft.or.jp/
12	マンションリフォームマネージャー	1992	公益財団法人 住宅リフォーム・紛争処理支援センター	https://www.chord.or.jp/course/reform_manager_01.html
13	カラーコーディネーター 1級 2級 3級	1995	東京商工会議所	http://www.kentei.org/color/
14	色彩士検定 1級 2級 3級	1998 1998 1997	特定非営利活動法人 全国美術デザイン教育振興会	http://www.colormaster.jp/
15	ライフスタイル プランナー 上級試験 基礎試験	1998	一般社団法人 輸入住宅産業協会	http://www.ihio.or.jp/2_lifestyle/life1_what.html
16	福祉住環境 コーディネーター 1級 2級 3級	2005 2000 1999	東京商工会議所	http://www.kentei.org/fukushi/
17	整理収納アドバイザー 整理収納コンサルタント 1級 2級 3級	2003	一般社団法人 ハウスキーピング協会	http://housekeeping.or.jp/explains/index/00087
18	TALK食空間 コーディネーター 2級 3級	2003	特定非営利活動法人 食空間コーディネート協会	http://www.talk-tcs.gr.jp/shikaku/
19	リビングスタイリスト 1級 2級 3級	2007 2005 2014	一般社団法人 日本ライフスタイル協会	http://www.lifestyle.or.jp/ls/about.html
20	住空間収納プランナー マスター エキスパート ベーシック	2009	一般社団法人 日本収納プランナー協会	http://jalo.jp/
21	ライフオーガナイザー 1級 2級	2009	一般社団法人 日本ライフオーガナイザー協会	http://www.nspk.org/
22	インテリアデコレーター (インテリアデコレーション エクセルシア) EX 1級 2級	2010	一般社団法人 日本インテリアデコレーション協会	http://www.jida-ex.or.jp/test.html
23	リフォームスタイリスト 1級 2級 3級	2010	一般社団法人 日本ライフスタイル協会	http://www.lifestyle.or.jp/reform/about.html
24	住宅建築コーディネーター	2011	厚生労働省認可財団法人 職業技能振興会	http://www.jkck.jp/
25	インテリアアテンダント インテリアアテンダント インテリアセルフアテンダント1級 インテリアセルフアテンダント2級	2013	一般社団法人 日本インテリアアテンダント協会 一般財団法人 生涯学習開発財団	http://www.j-iaa.or.jp/
26	ベターライフリフォームアドバイザー	2014	一般社団法人 ベターライフリフォーム協会	http://blr.or.jp/business/advisor.html
27	窓装飾プランナー	2014	一般社団法人 日本インテリアファブリックス協会	http://nif.or.jp/window_treatment/index.html
28	ライフスタイルリフォームアドバイザー	2016	一般社団法人 輸入住宅産業協会	http://www.ihio.or.jp/2_lifestyle/life1_what.html

表2 インテリア全般に関する資格の概要

No	資格名	概要
2	インテリア設計士	生活者が安全で快適な住生活ができるよう、インテリアに関する計画・設計並びに生産・施工・監理技術を身につけた技術者
5	インテリアコーディネーター	インテリアや住宅や商品に関する幅広い知識・専門的な技術などを駆使し、家具やカーテン、照明等の商品をトータルにプロデュースする人
6	インテリアデコレーター (ID＝内装士)	「室内装備の企画・設計・施工管理」「インテリアの企画・設計・インテリアコーディネート」「防災・防火・法令遵守の責任施工」「室内環境の安全性に配慮した施工」「インテリアコンサルティング」といった知識・技術、能力・経験を有する人材
9	インテリアプランナー	インテリアプランニングにおける企画・設計・工事監理を行うインテリアに関する知識と技術に習熟した専門家
15	ライフスタイルプランナー	住まいづくりを通じて、理想の暮らし方を提案する人材。欧米諸国の快適なライフスタイルを提案できる優れた人材
19	リビングスタイリスト	店頭で商品の魅力を説明するだけではなく、お客様のライフスタイルを把握し、最も適切な提案を行う能力を持っており、高い顧客満足度を実現する人材
22	インテリアデコレーター (インテリアデコレーション エクセルシアー)	日本独自の文化や伝統を理解し、個人個人のライフスタイルや時代に合わせたさまざまな空間を構成・演出する専門家

表3 インテリア全般に関する資格の受験・登録更新要件

No	資格		受験要件						登録更新要件		
			要件なし	年齢	学歴	資格	実務	その他	登録有効期間	更新時の条件 (更新料を除く)	その他研修など
2	インテリア設計士	1級				○	○		1.5年	第1回更新時に個人会員A又はBを選択。Aは毎年更新。Bは3年毎に更新。	
		2級		○ (20歳以上)	○						
5	インテリアコーディネーター		●						5年	更新研修あり	
6	インテリアデコレーター(ID＝内装士)				○	○	○	●(※1)	3年		年1回向上研修
9	インテリアプランナー	登録試験	●		○	○	○		5年	更新講習あり	
15	ライフスタイルプランナー	上級試験				●	●		5年	所定単位数が必要	年間1単位以上を取得し自己研鑽に努めることを奨励
		基礎試験		● (18歳以上)							
19	リビングスタイリスト	1級				●			なし		
		2級	●						なし		
		3級	●						なし		
22	インテリアデコレーター (インテリアデコレーション エクセルシアー)	EX				●	●		3年		
		1級				●			3年		
		2級		● (18歳以上)					3年		

凡例：●必須要件 ○いずれかの要件が必要

※1 日装達の所属組合員並びに日装達関連企業従事者であること

表4 インテリア全般に関する資格の試験内容

No	資格		学科								論文	実技		面接
			計画	法規	構造	施工	環境・設備	インテリアエレメント	ガーデニング	マーケティング	その他	設計製図	その他	
2	インテリア設計士	1級										○	○	
		2級	○	○	○	○	○	○				○		
5	インテリアコーディネーター		○	○	○	○	○	○				○	○	
6	インテリアデコレーター (ID＝内装士)		○	○	○	○	○	○				○	積算書 工程表	
9	インテリアプランナー		○	○	○	○	○	○						
15	ライフスタイルプランナー	上級試験	○	○							住宅販売	○	○	
		基礎試験	○ (住宅)	○ (住宅)			○ (住宅)	○	○		輸入住宅の知識 コンサルティング			
19	リビングスタイリスト	1級										○		
		2級		○				○		○	接客販売			
		3級						○		○	接客販売			
22	インテリアデコレーター (インテリアデコレーション エクセルシアー)	EX										○	○	○
		1級	○	○	○		○	○	○	○	伝統文化	○	○	
		2級	○	○	○			○	○	○	伝統文化			

一方、「インテリアコーディネーター」は、主に住まい手にとって快適な住空間を作り出すことができる人材を認定する資格である。試験内容は「インテリア設計士」や「インテリアプランナー」に近く、建築要素の知識も比較的多く含まれている。

「インテリアデコレーター」という名称をもつ資格は2つある。「インテリアデコレーター (ID = 内装士)」は実際にインテリアの施工を行う職人の教育制度が発展した資格である。そのため、日本室内装飾事業協同組合連合会（以下、日装連）の所属組合員並びに日装連関連企業従事者であることが受験要件であり、実技試験内容に積算書や工程表の作成も含まれている。「インテリアデコレーター (インテリアデコレーション エクセルシアー)」は「インテリアコーディネーター」に比較的近い試験内容になっているが、日本の文化や伝統についての知識が試験内容に取り入れられていることが特徴である。日本独自の文化を理解したうえで、和の空間や日本伝統工芸などをインテリアの装飾や演出に活用することができる人材を育成することを目指している。

販売の知識が試験内容に含まれている資格に「ライフスタイルプランナー」と「リビングスタイリスト」がある。「ライフスタイルプランナー」は「一般社団法人輸入住宅産業協会」が実施している資格のため、主に住宅に関する知識が試験内容の中心となり、さらに欧米諸国のライフスタイルや輸入住宅の特徴、住宅販売についての知識が含まれている。「リビングスタイリスト」はインテリアをはじめとする住生活商品の購入時にアドバイスができる人材を認定する資格であるため、インテリアエレメント等の知識とともに、販売やマーケティング等についての知識が含まれている。2級と3級は受験要件も実技試験もないため、誰でも取り組みや

すい資格である。

(3) 求められる職能

インテリア全般に関する資格は次の3つのタイプに分類することができる。

- ①住宅をはじめ商業施設や公共建築物等を対象とし、企画・計画から工事監理まで携わることができる職能を求める資格（「インテリア設計士」、「インテリアデコレーター (ID = 内装士)」、「インテリアプランナー」)
- ②主に住宅を対象にインテリアをトータルに提案することができる職能を求める資格（「インテリアコーディネーター」、「インテリアデコレーター (インテリアデコレーション エクセルシアー)」)
- ③住宅やインテリアの商品知識と販売知識を持ち、ライフスタイルに合わせた提案をすることができる職能を求める資格（「ライフスタイルプランナー」、「リビングスタイリスト」)

また、資格登録の更新条件をみると（表3）、「インテリアコーディネーター」と「インテリアプランナー」は更新研修が実施されており、更新時に知識や技術の再確認ができる仕組みになっている。また、「インテリアデコレーター (ID = 内装士)」や「ライフスタイルプランナー」はスキルアップのための研修や単位取得（研修参加やコンペ応募等の活動により単位が取得できる仕組み）が設けられており、知識や技術の継続的な維持・向上が求められている。

4. リフォームに関する資格

調査対象とした28種類の資格のうち、リフォームに関する資格6種類について考察する。資格の概要について表5にまとめた。リフォームに関わる資格には、リフォームの規模や目的により「建築士」をはじめ「インテリアプランナー」や「福祉住環境コーディネーター」など

表5 リフォームに関する資格の概要

No	資格名	概要
7	DIYアドバイザー	住まいの手入れ、補修、改善等を自らの手で行ない、快適な生活空間を創造したいと願う生活者を対象に、DIYの指導・相談にたずさわる人
8	増改築相談員	住宅リフォームに関する技術的な知識と消費者からの相談に必要なコミュニケーション能力をあわせもち、これから住宅のリフォームを考えている消費者からの相談に誠実に対応する人。また、消費者の要請に応じて、住宅リフォームの具体的計画や見積もり等を行う。
12	マンションリフォームマネージャー	主としてマンションの専有部分のリフォームにおいて、居住者の要望を実現するために、専門知識をもって、管理組合や、施工者などと協力・調整しながら、居住者に付加価値の高いリフォームを企画・提供するための業務推進能力を持つ人
23	リフォームスタイリスト	住宅リフォームの相談・助言業務に携わる営業系相談員。消費者が安心してリフォームの相談ができる人材。
26	ベターライフリフォームアドバイザー	住まいの性能を向上させることで、いつまでも安心・安全、快適で便利な暮らしと、住まいの長寿命化を実現する「ベターライフリフォーム」を提案する人。お客様の住まいに対する要望を整理し、最適のリフォームプランを提案する。
28	ライフスタイルリフォームアドバイザー	性能や機能だけに偏った従来型のリフォームとは異なった、海外ライフスタイルやインテリアから始まる豊かな暮らし方までのソフトを提案できる人材。輸入住宅関連企業や住宅業界を超え、これらに進出したい不動産業界の開拓提案による営業ができる人材。

多数存在するが、ここではリフォームに特化された資格を取り上げる。

(1) 受験要件

リフォームに関する資格の受験要件を見ると(表6)、「増改築相談員」と「ベターライフリフォームアドバイザー」は実務経験を問うが、それ以外の資格は誰でも受験できる、もしくは年齢制限(18歳以上)のみで受験資格が得られる。「増改築相談員」は「住宅の新築工事又はリフォーム工事に関する実務経験10年以上を有していること」が要件になっており、大工や工務店の従業員が主な対象者となっている。「ベターライフリフォームアドバイザー」は「住宅リフォーム事業者に所属し、実務経験3年以上を有していること」が要件になっている。この2つの資格については、リフォームの実務経験

者に資格の称号を付与することで、住宅リフォームに関する知識と技術を習得している人材であることを生活者に伝えることができる。

「増改築相談員」と「ベターライフリフォームアドバイザー」以外の資格は、実務経験がなくても受験することができるため、リフォームに興味を持つ学生や未経験者でも資格を取得できる。

(2) 試験内容

リフォームに関する資格には、試験に合格することにより認定される資格と、講習を受講して認定される資格がある(表7)。「増改築相談員」、「ベターライフリフォームアドバイザー」、「ライフスタイルリフォームアドバイザー」は講習を受講し、講習の最後に実施されるテストに合格すると資格を取得することができる。「リ

表6 リフォームに関する資格の受験・登録更新要件

No	資格	受験要件					登録更新要件		
		要件なし	年齢	学歴	資格	実務	その他	登録有効期間	更新時の条件 (更新料を除く)
7	DIYアドバイザー		● (18歳以上)					5年	
8	増改築相談員					●		5年	更新研修あり
12	マンションリフォームマネージャー	●						なし	
23	リフォームスタイリスト	1級	●					なし	スキルアップ制度あり
		2級	●					なし	
		3級	●					なし	
26	ベターライフリフォームアドバイザー					●		なし	
28	ライフスタイルリフォームアドバイザー		● (18歳以上)						

凡例：●必須要件 ○いずれかの要件が必要

表7 リフォームに関する資格の試験内容

No	資格	試験			講習		学科試験又は講習							実技		面接	
		学科	実技	その他	講習	テスト	計画	法規	施工	設備・性能	マネジメント	最近のトピック	トラブル事例	その他	設計製図		その他
7	DIYアドバイザー	○	○	面接				○		○				DIYに関する基礎知識 DIY用品の知識		DIY実技	○
8	増改築相談員				○	○		○	○	○	○	○	○	点検・補修 融資・税金・介護保険			
12	マンションリフォームマネージャー	○	○				○	○	○	○	○				○		
23	リフォームスタイリスト	1級	○					○	○	○	○		○				
		2級	○						○	○	○	○		○			
		3級	○						○	○	○	○	○	○			
26	ベターライフリフォームアドバイザー				○	○		○		○	○		○	リフォーム提案の作成			
28	ライフスタイルリフォームアドバイザー				○	○	○			○	○			海外のライフスタイル知識 プレゼンテーション			

フォームスタイリスト」は試験のみで構成されている。いずれも住宅リフォームに関する基礎知識からリフォームのマネジメントやコンサルティング業務の知識、トラブル対応等の知識が盛り込まれている。「ライフスタイルリフォームアドバイザー」は「ライフスタイルプランナー」と同じく「一般社団法人輸入住宅産業協会」が実施している資格のため、海外のライフスタイルについての知識が取り入れられていることが特徴である。

リフォームに関する資格のうち、実技試験があるのは「DIY アドバイザー」と「マンションリフォームマネージャー」である。いずれも受験要件は誰でも受けられるもしくは年齢制限（18歳以上）のみだが、実技試験があることにより、ある程度の実務の知識と技術が求められている。「マンションリフォームマネージャー」はマンションの専有部分のリフォームに特化した資格のため、マンション特有の法規・制度等の知識が問われることに加え、実技試験ではマンションリフォームの設計製図が行われる。「DIY アドバイザー」は自らの手で住まいの手入れ・補修・改善等を行う DIY に特化した資格のため、実技試験では実際の工具や材料を使った試験が行われる。

（3）求められる職能

「増改築相談員」、「リフォームスタイリスト」、「DIY アドバイザー」はリフォームに関する資

「ベターライフリフォームアドバイザー」、「ライフスタイルリフォームアドバイザー」は、いずれも生活者の立場に立って住宅リフォームの相談・アドバイスができる人材を認定するための資格である。住宅リフォームは、住宅の状況や生活者の要望により規模や工事内容は多種多様であり、さらに工事を始めてみないと分からない部分も多いため、トラブルが起こりやすい。そのため、リフォームの技術的な知識を持ち、生活者に対して誠実に相談・アドバイスができる人材が必要不可欠である。

「増改築相談員」は、高度経済成長期に大量供給された住宅のリフォームに目が向けられるようになった1980年代に誕生した。昨今の住宅リフォームに対するニーズの高まりに伴い、2010年に「リフォームスタイリスト」、2014年に「ベターライフリフォームアドバイザー」、2016年に「ライフスタイルリフォームアドバイザー」とリフォームに関する資格が次々と誕生している。資格が煩雑にならないよう、住宅リフォームに対する職能の整理が必要であると考えられる。

マンションの専有部分のリフォームに特化した資格である「マンションリフォームマネージャー」は、年々増加し続けるマンションストックのリフォームが急務となっているので、そのスペシャリストとしての活躍が期待される。

「DIY アドバイザー」はリフォームに関する資

格の中では最初に誕生した資格であるが、昨今のDIYニーズの高まりに応じて、専門家の重要性がより高まっている。

5. 特定の分野に焦点をあてた資格

調査対象とした28種類の資格のうち、特定の分野に焦点をあてた資格14種類について考察する。資格の概要について表8にまとめた。

(1) 受験要件

特定の分野に焦点をあてた資格の受験要件を見ると(表9)、「商業施設士」は20歳以上であれば学科試験を受験することはできるが、実技

試験を受験するためには学歴・資格・実務経験の組み合わせによる条件を満たしていなければいけない。「商業施設士補」は「商業施設士」の下位資格であるが、受験要件として学歴が必要になるため一般に門戸が開かれておらず、学生が「商業施設士」を目指すための前段階として取得するための資格という位置づけである。その他の資格においては、下位資格は誰でも受験できる、もしくは年齢制限(18歳以上)のみで受験資格が得られる。「収納」に関する資格については、上位資格の受験要件が下位資格取得済みであることから、段階的に専門知識を身につけることができる仕組みになっている。

表8 特定の分野に焦点をあてた資格の概要

No	資格名	概要
3	商業施設士	生活者が日常利用しているあらゆる商業施設の、運営管理システムや店舗の構成・デザインなどを総合的に計画し、監理まで行なう優れた専門家
4	照明コンサルタント	照明に関する専門的な知識を体系的に持ち、ランプ、器具、配線、光のデザイン、光学的判断に対して十分な経験を積み、照明の分野に関する質問に答えたり、照明計画や器具デザインなどの具体的方法を指導する立場の人間
10	キッチンスペシャリスト	家の中でも重要なキッチンまわりを中心に生活者のニーズに合わせて、キッチン空間・機能・設計・施工の知識を活かし、快適で使いやすいキッチン空間を提案するアドバイスを行う人
16	福祉住環境コーディネーター	高齢者や障がい者に対し、できるだけ自立しやすい生活できる住環境を提案するアドバイザー。医療・福祉・建築について体系的に幅広い知識を身に付け、各種の専門家と連携をとりながらクライアントに適切な住宅改修プランを提示する。
18	TALK食空間コーディネーター	食空間のプロ、スペシャリスト。おもてなしを主とする業界や、家族の団楽や記念日のパーティ、食卓での談や教育、心の交流など、生活に関わるさまざまな分野で生かされる。
27	窓装飾プランナー	カーテンやブラインド等の多彩なアイテムの中から、お客さまのニーズやライフスタイルに合った窓装飾を提案・販売する専門家
色	11 色彩検定	従来から「感性」だけによるものと見られがちであった「色に関する知識や技能」を理論的、系統的に学ぶことにより、「理論に裏付けられた色彩の実践的活用能力」を身につけた人
	13 カラーコーディネーター	色の性質・特性など、色彩の知識を身につけ、色の持つ効果をビジネスシーンに活かすことができる人
	14 色彩士検定	「実践」に生かせる色彩能力を身につけた人。基礎から幅広い知識と、実際に色を使うための技能の両方にバランスのとれた能力を有する人。
収納	17 整理収納アドバイザー	家庭及び小規模事務所の整理及び収納のノウハウを身につけ、指導アドバイスする人
	20 住空間収納プランナー	「整理収納の概念」「整理収納の必要性」「環境との密接なかわり」などを深く理解し、個々の生活スタイルに合った快適な生活空間を総合的にプロデュースする能力を身に付けた人
	21 ライフオーガナイザー	空間や暮らし、人生を俯瞰し仕組み化する技術(ライフオーガナイズ)を多くの人に広め、実際にサポートしていく専門家
消費者サポート	24 住宅建築コーディネーター	家づくりに関するすべての流れを把握し、資金・不動産・設計・施工などの住宅建築に必要な専門分野を繋いで、お客様の家づくりを叶える人。住宅建築についての流れや、どこでどんな手続きが必要かなどの道案内をし、お客様が分からない部分を理解しながら家づくりが進められるようサポートする。
	25 インテリアアテンダント	お客様が住まいに対する「思い」や「気持ち」を目に見える形で表現し、専門家に確実に伝えるための知識、技能を伝えることでお客様をサポートする人

表9 特定の分野に焦点をあてた資格の受験・登録更新要件

No	資格		受験要件						登録更新要件		
			要件なし	年齢	学歴	資格	実務	その他	登録有効期間	更新時の条件 (更新料を除く)	その他研修など
3	商業施設士	商業施設士		○ (20歳以上)	○	○	○		3年		
		商業施設士補			●				なし		
4	照明コンサルタント	照明士						●(※1)	1年※4		
		照明コンサルタント	●						5年	レポート提出 スクーリング受講	
10	キッチンスペシャリスト		●						5年		
16	福祉住環境 コーディネーター	1級	●						なし		
		2級	●						なし		
		3級	●						なし		
18	TALK食空間 コーディネーター	2級				●			2年		
		3級	●						2年		
27	窓装飾プランナー		●						5年		
色	11 色彩検定	1級	●						なし		
		2級	●						なし		
		3級	●						なし		
	13 カラーコーディネーター	1級	●						なし		
		2級	●						なし		
		3級	●						なし		
	14 色彩士検定	1級				●			なし		
		2級	●						なし		
		3級	●						なし		
収納	17 整理収納アドバイザー	整理収納コンサルタント				●			なし		
		1級				●			なし		
		2級	●						なし		
		3級	●						なし		
	20 住空間収納プランナー	マスター				●		●(※2)	1年※4		
		エキスパート				●		●(※3)	1年※4		
		ベーシック	●						1年※4		
	21 ライフオーガナイザー	1級				●			なし		
		2級	●						なし		
消費 者サ ポート	24 住宅建築コーディネーター			● (18歳以上)					3年	更新講習あり	
	25 インテリアアテンダント	インテリアアテンダント				●			なし		
		インテリアセルフアテンダント1級				●			なし		
		インテリアセルフアテンダント2級	●						なし		

凡例：●必須要件 ○いずれかの要件が必要

※1 照明学会の会員であること

※2 日本収納プランナー協会のエキスパート会員であること

※3 日本収納プランナー協会のベーシック会員であること

※4 会員有効期間

表10 特定の分野に焦点をあてた資格の試験内容

No	資格		試験			講座・講習	
			学科	実技	その他	講座・講習	テスト
3	商業施設士	商業施設士	○	○			
		商業施設士補				○	
4	照明コンサルタント	照明士				○	
		照明コンサルタント				○	
10	キッチンスペシャリスト		○	○			
16	福祉住環境 コーディネーター	1級	○				
		2級	○				
		3級	○				
18	TALK食空間 コーディネーター	2級	○	○			
		3級	○※1			○※1	
27	窓装飾プランナー		○				
色	11 色彩検定	1級	○	○			
		2級	○				
		3級	○				
	13 カラーコーディネーター	1級	○				
		2級	○				
		3級	○				
	14 色彩士検定	1級	○	○			
		2級	○				
		3級	○				
収納	17 整理収納アドバイザー	整理収納コンサルタント	○		口頭試問	○	
		1級	○		研究発表	○	
		2級				○	○
		3級				○	
	20 住空間収納プランナー	マスター			論文 模擬講義		
		エキスパート	○	○			
		ベーシック	○				
	21 ライフオーガナイザー	1級				○	○
		2級				○	○
消費者サポ ート	24 住宅建築コーディネーター		○				
	25 インテリアアテンダント	インテリアアテンダント				○	
		インテリアセルフアテンダント1級				○	
		インテリアセルフアテンダント2級				○	

※1 いずれかの方法を選択できる

(2) 試験内容

各資格の試験内容を表10にまとめた。「商業施設士」は、あらゆる商業施設の企画・計画から工事監理まで携わることができる知識と技術を持つ人材を認定する資格である。商業施設に特化しているが、実技試験では商業施設の計画・提案又は設計を行うので、試験内容は「インテリア設計士」や「インテリアプランナー」に近い。

特定の分野に焦点をあてた資格はいずれも、それぞれの分野の専門家を育成することが主旨であるため、学科試験だけではなく、実技試験や論文・発表など多彩な形式で資格認定が実施

されている。特に「収納」に関する資格を見ると、「整理収納アドバイザー」には口頭試問や研究発表、「住空間収納プランナー」には論文や模擬講義等が試験内容に含まれており、口頭によるプレゼンテーション力が求められている。

(3) 求められる職能

「商業施設士」、「照明コンサルタント」、「キッチンスペシャリスト」、「福祉住環境コーディネーター」、「TALK 食空間コーディネーター」、「窓装飾プランナー」は、それぞれの分野の専門家として称号が付与されている。「福祉住環境コーディネーター」以外は登録有効期間が定

められているので、称号の価値を持続させる仕組みはあるが、更新時に講習を行う等、知識や技術を再確認できる仕組みが必要ではないかと考えられる。

「色」や「収納」に関する資格は複数あるが、いずれの資格も求められる知識や技術は近い内容である。「色」の知識は幅広い分野に関わるため、建築やインテリアの分野に特化した「色」の資格があってもよいのではないかと考えられる。

「住宅建築コーディネーター」と「インテリアアテンダント」は、住まいづくりにおいて生活者と専門家をつなぐ第三者的立場の専門家としての人材を認定する資格である。住まいづくりのプロセスについての知識とコミュニケーション力が求められる。2011年に「住宅建築コーディネーター」、2013年に「インテリアアテン

ダント」が誕生しており、これまでになかった新しい分野の専門資格となっている。

6. まとめ

今回の調査では、インテリアに関する専門資格を整理して、資格の受験・登録要件や試験内容等の比較・分析をおこなった。

インテリアに関する専門資格には、インテリアの企画・計画から工事監理までの広い範囲を扱う資格から、ある特定の分野に特化した資格まで幅広く存在する。建築物の設計・工事監理の業務を行うための専門資格「建築士」は建築士法に基づく国家資格であり、業務独占資格であるため、資格の位置づけが明快である。一方で、インテリアに関する資格には業務独占資格がないため、各資格の位置づけは曖昧である。

インテリア全般に関する資格について、「受

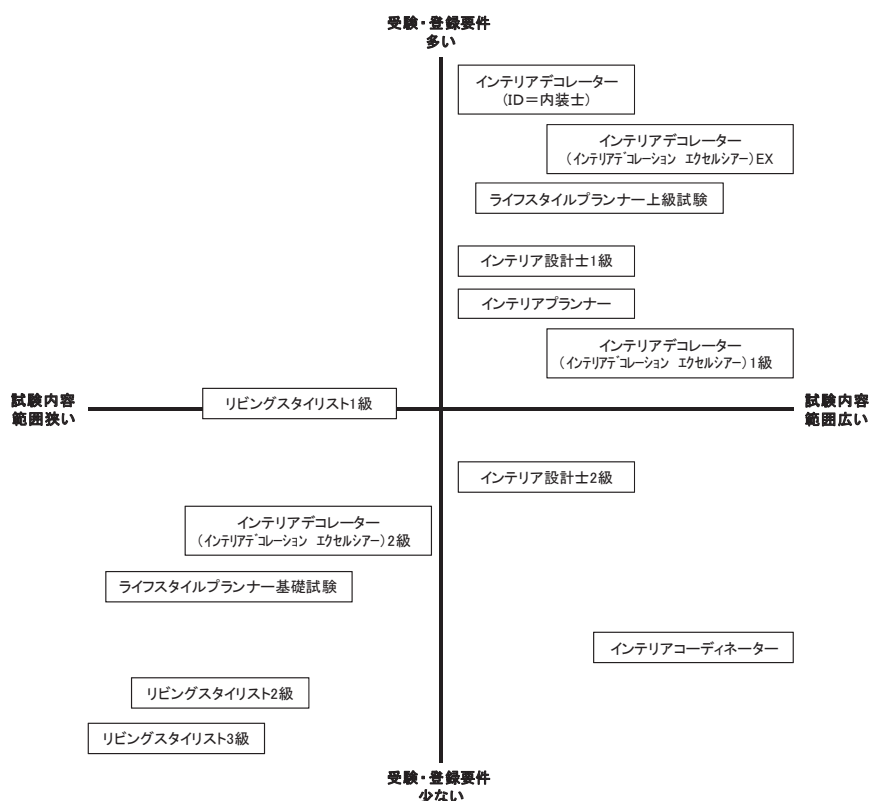


図1 インテリア全般に関する資格の「受験・登録要件」と「試験内容の範囲」による分類

験・登録要件」と「試験内容の範囲」に着目し、整理を行った分類イメージを図1に示す。専門性が高い資格として位置づけられるものは、「受験・登録要件」において実務経験や所有資格を問われ、試験内容の範囲が広い資格である。「受験・登録要件」において実務経験が必須である資格は「ライフスタイルプランナー(上級試験)」と「インテリアデコレーター(インテリアデコレーション エクセルシア) EX」であり、「試験内容の範囲」も論文と実技による幅広い知識と技術が求められている。「受験・登録要件」において実務経験もしくは資格・学歴が求められている資格は「インテリア設計士1級」、「インテリアデコレーター(ID=内装士)」、「インテリアプランナー」であり、「試験内容の範囲」は学科もしくは論文と設計製図があり、建築要素も含めた知識と技術が求められている。これらの5つの資格は、インテリア全般に関する資格の中で、専門性が高い資格であると言える。

「受験・登録要件」において所有資格を問われ、「試験内容の範囲」が広い資格として「インテリアデコレーター(インテリアデコレーション エクセルシア) 1級」がある。「試験内容の範囲」をみると学科・論文・実技試験があり幅広いが、「受験・登録要件」は下位資格のみであり、実務経験や他の専門資格の所有は問われていない。また、「試験内容の範囲」は幅広いが、「受験・登録要件」のハードルが低い資格として「インテリアコーディネーター」がある。

リフォームに関する資格は、いずれも主に住宅のリフォームを対象とした資格である。「受験要件」において、実務経験が必要な「増改築相談員」と「ベターライフリフォームアドバイザー」は専門性の高い資格であると言える。その他の資格は実務経験や学歴・資格がなくても取得できるため、資格取得者の専門性を見極め

るためには、資格取得後の経験値が見える仕組みが必要である。

特定の分野に焦点をあてた資格において、「受験要件」で実務経験が問われる資格は「商業施設士」のみである。そのため、リフォームに関する資格同様、資格取得者の専門性を見極めるためには、資格取得後の経験値が見える仕組みが必要である。特定の分野に焦点があてられていることから、生活者にとってはどの分野の専門家であるかは分かりやすい。しかし、専門家が細分化されることにより相談先も細分化されて複雑になることも考えられるので、昨今誕生している「住宅建築コーディネーター」や「インテリアアテンダント」のように生活者と専門家をつなぐとともに、専門家同士をつなぐ役割が重要になるのではないだろうか。

インテリアに関する専門資格は数多く誕生しているが、その職能は重なる部分が多い。そのため、生活者にとって理解しやすく専門家の役割を整理するためには、インテリア業界の中で専門資格を再編することも必要なのではないかと考えられる。

参考文献

- 1) 茂木弥生子：日本におけるインテリア関連の団体および資格についての一考察、駒沢女子大学研究紀要第21号、pp.59～72、2014
- 2) 茂木弥生子：日本におけるインテリアに関する資格制度についての一考察、駒沢女子大学研究紀要第22号、pp.41～54、2015
- 3) 茂木弥生子・松本真澄：日本におけるインテリアに関する資格設立の変遷と取得者属性、日本建築学会大会学術講演梗概集 F-1 分冊、pp.67～68、2016
- 4) 茂木弥生子・松本真澄：建築家による住宅インテリアエレメントの提案・決定プロセ

- ス、日本インテリア学会大会研究発表演梗概集、pp.21～22、2016
- 5) 茂木弥生子・松本真澄：住宅インテリアの捉え方に関する30～50代建築家へのインタビュー調査、日本建築学会大会学術講演梗概集 F- 1 分冊、pp.217～218、2015
 - 6) 茂木弥生子・松本真澄：住宅インテリアの捉え方に関する50代以上の建築家へのインタビュー調査、日本インテリア学会大会研究発表演梗概集、pp.25～26、2015
 - 7) 茂木弥生子・松本真澄：住宅インテリアに関する40代建築家を対象としたインタビュー調査、日本建築学会大会学術講演梗概集 F- 1 分冊、pp.209～210、2014
 - 8) 茂木弥生子・松本真澄：住宅インテリアの捉え方に関する若手建築家へのインタビュー調査、日本インテリア学会大会研究発表演梗概集、pp.59～60、2014
 - 9) 本田榮二：最新インテリア業界の動向とカラクリがよ～くわかる本【第2版】、秀和システム、2013
 - 10) 三輪正弘：インテリアデザインとは何か、鹿島出版会、1985
 - 11) 内田繁（監修）・鈴木紀慶・今村創平：日本インテリアデザイン史、オーム社、2013
 - 12) 専門学校 ICS カレッジオブアーツ校友会：インテリアデザインの半世紀―戦後日本のインテリアデザインはいかに生まれどう発展したのか？、六耀社、2014